

J.S.バッハ マタイ受難曲 対訳

メンデルスゾーン版、フルトヴェングラー、メンゲルベルク、ラミンの録音におけるカット

古い録音で聞ける歌詞

旧全集と新全集で違っている所は旧全集の歌詞(赤字)

古語をリヒター盤で通常の語形で歌っている場合はそちらを表記(青字)

stund(古)→ stand(現)など

ß(エスツェット)は旧正書法での表記

目次

	曲番号	ページ
第Ⅰ部	冒頭合唱	Nr.1 2
	受難の予言とイエスに対する謀議	Nr.2 - 4b 2
	ベタニアの香油	Nr.4c - 6 3
	ユダの裏切り	Nr.7 - 8 3
	最後の晩餐	Nr.9a -13 4
	オリーブ山での離反の予告	Nr.14 -17 6
	ゲッセマネの祈り	Nr.18 -25 7
	イエス捕縛	Nr.26 -28 9
	第Ⅰ部終結コラール	Nr.29 10
第Ⅱ部	アリアと合唱	Nr.30 11
	大祭司カイファの審問	Nr.31 -37 11
	ペテロの否認	Nr.38a -40 13
	ユダの自殺	Nr.41a -43 14
	総督ピラトの審問	Nr.43 -50d 15
	鞭打ち	Nr.50e -54 17
	ゴルゴタ・十字架	Nr.55 -60 18
	イエスの死	Nr.61a -63b 20
	降架と埋葬	Nr.63c -66 21
	哀悼	Nr.67 -68 23

テキストについて

自由詩（レチタティーヴォ&アリア、合唱）

全てピカンダー(Picander、本名 Christian Friedrich Henrici,1700-64)による作詞。

『まじめな詩・諧謔的な詩・風刺的な詩(Ernst-Schertzhafte und Satyrische Gedichte)』第2集(1729)に収録。

第1曲・第19曲もコラールを組み込んだ形で書かれている。

彼は失われた「マルコ受難曲」の歌詞も書いている。（「ヨハネ受難曲」の作詞者は不明。）

主要コラール3種

A. Herzeleibster Jesu 詞：Johann Heermann(1585-1657)、旋律：Johann Crüger(1598-1662)
Nr.3(第1節)、Nr.19(第3節)、Nr.46(第4節)

B. O Welt, sieh hier dein Leben 詞：Paul Gerhardt(1607-76) 旋律：Heinrich Isaac(1450c.-1517)
Nr.10(第5節)、Nr.37(第3節)
元となった旋律は「Innsbruck, ich muss dich lassen」とされている。

C. O Haupt voll Blut und Wunden 詞：Paul Gerhardt 旋律：Hans Leo Haßler(1562-1612)
Nr.15(第5節)、Nr.17(第6節)、Nr.54(第1・2節)、Nr.62(第9節)
また Nr.44 は旋律のみ使用(詞は Gerhardt の別コラール)

上記以外のコラールは Nr.1, 25, 29, 32, 40 の5曲のみ

当対訳について

曲番号は新バッハ全集の番号 NBA、続く【 】は旧バッハ全集の番号 BWV、()はマタイ福音書の章節番号である。

合唱が歌うところのみ歌詞のフォントを「メイリオ」にした。

第Ⅰ部

第1曲【1】 冒頭二重合唱 & コラール

Kommt, ihr Töchter, helft mir klagen,
Sehet -Wen? -den Bräutigam,
Seht ihn -Wie? -als wie ein Lamm!
Sehet, -Was? -seht die Geduld,
Seht -Wohin? -auf unsre Schuld;
Sehet ihn aus Lieb und Huld
Holz zum Kreuze selber tragen!

来たれ、娘たちよ、私の嘆き・訴えを聴いて！
見よ -誰を？ -花婿を！
彼を見よ -どのような？ -子羊のような！
見よ -何を？ -彼の忍耐を。
見よ -どこを？ -私たちの罪を。
彼を見よ。愛と慈しみの故に、
自ら十字の木を背負っている(彼を)！

<コラール> 詞曲 Nikolaus Decius 「O Lamm Gottes unschuldig」第1節

O Lamm Gottes, unschuldig
am Stamm des Kreuzes geschlachtet,
allzeit erfunden geduldig,
wiewohl du warest verachtet.
All' Sünd' hast du getragen,
sonst müßten wir verzagen.
Erbarm dich unser, o Jesu!

おお、神の子羊よ、罪無くして
十字の幹に屠られた(御方よ)
常に、企みにあっても、耐え忍ばれた
あなたはどんなに侮られたにもかかわらず。
全ての罪をあなたは背負われた。
さもなければ私達は絶望していたに違いない。
私たちを憐れんでください、おおイエスよ！

受難の予言とイエスに対する謀議

第2曲【2】 (Matthäus 26:1-2)

福音史家： Da Jesus diese Rede vollendet hatte,
sprach er zu seinen Jüngern:

イエスはこれらの言葉を語り終えると、
弟子たちに言った。

イエス： Ihr wisset,
daß nach zweien Tagen Ostern wird,
und des Menschen Sohn
wird überantwortet werden,
daß er gekreuziget werde.

お前たちも知っている通り、
二日後は過越となる。 ※新旧とも zweien だが
そして、人の子は ルター聖書 1710 が zweien
ひき渡されるだろう、
十字架につけられるために。

第3曲【3】 コラール 詞：Johann Heermann 「Herzliebster Jesu」第1節 旋律：A

Herzliebster Jesu,
was hast du verbochen,
daß man ein solch scharf Urteil
hat gesprochen?
Was ist die Schuld,
in was für Missetaten bist du geraten?

心より愛するイエスよ、
何の罪を犯したのですか、
そんな厳しい判決を
言い渡されたとは？
罪は何なのですか、
どのような悪事にあなたは陥ったのですか？

第4 a 曲【4】 (26:3-5)

福音史家： Da versammelten sich die Hohenpriester
und Schriftgelehrten und die Ältesten im Volk
in den Palast des Hohenpriesters,
der da hieß Kaiphas,
und hielten Rat,
wie sie Jesum mit Listen griffen und töteten.
Sie sprachen aber:

そのころ、祭司長たちや
律法学者および民の長老たちは、
カイファという名の
大祭司の屋敷に集まり、
どのような計略で
イエスを捕らえ殺そうか、と協議した。
そこで彼らは言った。

第4 b 曲【5】 (26:5) 二重合唱

Ja nicht auf das Fest,
auf daß nicht ein Aufruhr werde im Volk.

そうだ、祭の間はいけない、
民衆の中で騒ぎが起きないようにしよう。

香油を注ぐベタニアの女

第4 c 曲【6】(26:6-8)

福音史家： Da nun Jesus war zu Bethanien,
im Hause Simonis des Aussätzigen,
trat zu ihm ein Weib,
die hatte ein Glas mit köstlichem Wasser
und goß es auf sein Haupt,
da er zu Tische saß.
Da das seine Jünger sahen,
wurden sie unwillig und sprachen:

さて、イエスが、ベタニアで、
癩病人シモンの家に行った時、
一人の女が、高価な香油の入った
ガラス容器を持って、彼に近寄り、
イエスの頭に香油を注いだ。
それは彼が食卓に着いていた時だった。
すると、イエスの弟子たちはそれを見て、
腹を立てて言った。

第4 d 曲【7】(26:8-9) 合唱 I

Wozu dienet dieser Unrat?
Dieses Wasser hätte mögen teuer verkauft
und den Armen gegeben werden.

何のために、こんな無駄使いをするのか？
この香油は高く売られて、
貧しい人々に施しとして与えられただろうに。

第4 e 曲【8】(26:10-13)

福音史家： Da das Jesus merket, sprach er zu ihnen:

するとイエスはそれに気づいて、弟子たちに言った。

イエス： Was bekümmert ihr das Weib?
Sie hat ein gut Werk an mir getan.
Ihr habet allezeit **Arme** bei euch,
mich aber habt ihr nicht allezeit.
Daß sie dies Wasser
hat auf meinen Leib gegossen,
hat sie getan, daß man mich begraben wird.
Wahrlich, ich sage euch:
Wo dies Evangelium gepredigt wird
in der ganzen Welt,
da wird man auch sagen zu ihrem Gedächtnis,
was sie getan hat.

なぜ、お前たちはこの女を困らせるのか？
彼女は私に良い事してくれたのだ。 ※新 Armen
貧しい人々は常にお前たちの周りにいるが、
私は常にお前たちと一緒にいるわけではない。
彼女が香油を
私の体に注いだのは、
私が葬られるためにしてくれた事なのだ。
まことに、お前たちに言っておく、
この福音が宣べ伝えられるであろう所では
世界中どこでも、
彼女のしてくれたこともまた、
彼女の記念として語り伝えられるだろう。

第5 曲【9】 レチタティーヴォ (アルト)

Du lieber Heiland, du,
wenn deine Jünger töricht streiten,
daß dieses fromme Weib
mit Salben deinen Leib
zum Grabe will bereiten,
so lasse mir inzwischen zu,
von meiner Augen Tränenflüssen
ein Wasser auf dein Haupt zu gießen!

愛する救い主であるあなた、
あなたの弟子たちは愚かにも言い争いました、
この敬虔な女が
あなたの身体に香油を塗ることによって
墓へ(葬る)準備をしたことについて。
それでも、私にお許し下さい、
私の目から流れる涙の
一滴をあなたの御頭に注ぐことを。

第6 曲【10】 アリア (アルト) ※メンデルスゾーン版：Da capo 後の前奏で終結。 ※ラミン：Da capo 後の前奏後奏カット。

Buß' und Reu'
knirscht das Sündenherz entzwei,
daß die Tropfen meiner Zähren
angenehme Spezerei,
treuer Jesu, dir gebären.

懺悔と後悔は ^{きし}
この罪深い心を軋ませ二つに裂く。
そして私の涙の滴は
心地よい香料を、
誠実なイエスよ、あなたに生じさせるのです。

ユダの裏切り

第7 曲【11】(26:14-16)

福音史家： Da ging hin der Zwölfen einer
mit Namen Judas Ischarioth
zu den Hohenpriestern und sprach:

その時、十二人の一人で
イスカリオテのユダという名の者が、
祭司長たちの所へ行き、言った。

ユダ： Was wollt ihr mir geben?
Ich will ihn euch verraten.

あなた方は私に幾らくれるでしょうか？
私が彼を裏切ってあなた方に売り渡しましょう。

福音史家： Und sie boten ihm dreißig Silberlinge.
Und von dem an suchte er Gelegenheit,
daß er ihn verriete.

そこで彼らは銀貨30枚をユダに提供した。
この時からユダは、
イエスを裏切る機会を探し求めていた。

第8曲【12】 アリア（ソプラノ） ※メンデルスゾーン版：Da capo 後の前奏カット。

Blute nur, du liebes Herz!
Ach! ein Kind, das du erzogen,
das an deiner Brust gesogen,
droht den Pfleger zu ermorden,
denn es ist zur Schlange worden.

血を流すがよい、汝、愛する心よ！
ああ！あなたが育てた、
あなたの乳を吸った子が、
その養育者を殺そうと脅す。
なぜなら、その子は蛇となってしまったからです。

最後の晩餐

第9 a 曲【13】 (26:17)

福音史家： Aber am ersten Tage der süßen Brot
traten die Jünger zu Jesu und sprachen zu ihm:

種なしパンの祭第一日に、
弟子たちがイエスのもとに来て、彼に言った。

第9 b 曲【14】 (26:17) 合唱 I

Wo willst du, daß wir dir bereiten,
das Osterlamm zu essen?

どこに、用意をいたしましょうか
過越の食事をする所を？

第9 c 曲【15】 (26:18-21)

福音史家： Er sprach:

イエスは言った。

イエス： Gehet hin in die Stadt zu einem
und sprecht zu ihm:
Der Meister läßt dir sagen:
Meine Zeit ist hier,
ich will bei dir
die Ostern halten mit meinen Jüngern.

街のある人のところに行って、
彼にこう言いなさい。
「先生があなたにこう言っています。
『私の時が近づいた。
私はあなたの所で
弟子たちと一緒に過越をしたい』と。」

福音史家： Und die Jünger **taten**,
wie ihnen Jesus befohlen hatte,
und bereiteten das Osterlamm.
Und am Abend
setzte er sich zu Tische mit den Zwölfen.
Und da sie aßen, sprach er:

弟子たちは、 ※新旧 **täten**
イエスが命じたとおりにして、
過越の食事を準備した。
晩になると、 ※新 **setzte**
イエスは十二人と一緒に食卓に着かれた。
一同が食事をしているとき、イエスは言われた。

イエス： Wahrlich, ich sage euch:
Einer unter euch wird mich verraten.

まことに、お前たちに言っておく。
お前たちのうちの一人が私を裏切るだろう。

第9 d 曲 (26:22)

福音史家： Und sie wurden sehr betrübt und huben an,
ein jeglicher unter ihnen, und sagten zu ihm:

弟子たちは非常に悲しんで、
各々それぞれ、イエスに対して言い始めた。

第9 e 曲 (26:22) 合唱 I

Herr, bin ich's?

主よ、それは私ですか？

第 10 曲【16】 コラール

詞 : Paul Gerhardt 「O Welt, sieh hier dein Leben」 第 5 節 旋律 : B

Ich bin's, ich sollte büßen,
an Händen und an Füßen
gebunden in der Höl'l'.
Die Geißeln und die Banden
und was du ausgestanden,
das hat verdient meine Seel'.

それは私です、私が償うべきなのです。
両手、両足を
地獄の中で縛られるべきなのです。
鞭打ちと縄、
そしてあなたが耐え忍ばれた苦難、
私の魂は、それを当然受けるべきだったのです。

第 11 曲【17】 (26:23-29)

福音史家 : Er antwortete und sprach:

イエスは答えて言った。

イエス : Der mit der Hand mit mir
in die Schüssel tauchet,
der wird mich verraten.
Des Menschen Sohn gehet zwar dahin,
wie von ihm geschrieben stehet;
doch wehe dem Menschen,
durch welchen des Menschen Sohn
verraten wird!
Es wäre ihm besser,
daß derselbige Mensch noch nie geboren wäre.

私とともに
鉢に手を浸している者、
その者が私を裏切るだろう。
確かに、人の子は去って行く、
聖書に書かれてあるとおりに。
だが、その者に禍あれ！
人の子を裏切るであろう
その者に！
彼にとって、より良かったのは、
彼自身が生まれてこないことだったのに！

福音史家 : Da antwortete Judas, der ihn verriet,
und sprach:

すると、イエスを裏切ったユダが
答えて言った。

ユダ : Bin ich's, Rabbi?

先生、それは私ですか？

福音史家 : Er sprach zu ihm:

イエスは彼に言った。

イエス : Du sagest's.

お前がそう言うのか。

福音史家 : Da sie aber aßen, nahm Jesus das Brot,
dankete und brach's,
und gab's den Jüngern und sprach:

一同が食事をしている時、イエスはパンを取り、
感謝して、それを裂き、
弟子たちに与えて言った。

イエス : Nehmet, esset, das ist mein Leib.

取って食べなさい。これは私の体である。

福音史家 : Und er nahm den Kelch und dankete,
gab ihnen den und sprach:

また、杯を取り、感謝して、
彼らに与えて言った。

イエス : Trinket alle daraus;
das ist mein Blut des neuen Testaments,
welches vergossen wird
für viele zur Vergebung der Sünden.
Ich sage euch:
Ich werde von nun an nicht mehr
von diesem Gewächs des Weinstocks trinken
bis an den Tag, da ich's neu trinken werde
mit euch in meines Vaters Reich.

皆、この杯から飲みなさい。
これは、新しい契約のための私の血、
多くの人にとって罪の許しのために
流される血である。
お前たちに言うておく。
私は今より後、葡萄から造られた
このような酒を飲むことは決してないだろう。
私の父の国でお前たちとともに、
新たに飲むであろうその日まで。

第 1 2 曲【18】 レチタティーヴォ (ソプラノ)

Wiewohl mein Herz in Tränen schwimmt,
daß Jesus von mir Abschied nimmt,
so macht mich doch sein Testament erfreut:
Sein Fleisch und Blut, o Kostbarkeit,
vermacht er mir in meine Hände.
Wie er es auf der Welt mit denen Seinen
nicht böse können meinen,
so liebt er sie bis an das Ende.

私の心は涙の中を漂っています。
イエスが私に別れを告げているからです。
それにもかかわらず、彼の契約は私を喜ばせます。
彼の肉と血、おお、この尊いものを
彼は私の手に遺してくれたのです。
彼は、この世で彼とともに在った者を
悪く思うことなどできなかったように、
世の終わりまで、彼らを愛してくださるのです。

第 1 3 曲【19】 アリア (ソプラノ)

Ich will dir mein Herze schenken,
senke dich, mein Heil, hinein!
Ich will mich in dir versenken;
ist dir gleich die Welt zu klein,
ei, so sollst du mir allein
mehr als Welt und Himmel sein.

私はあなたに私の心を捧げます。
降りてきて下さい、私の救いよ、私の中に！
私はあなたの中に身を沈めます。
あなたにとってこの世が小さすぎようとも、
そう、私にはあなただけが
世界や天よりもまさるべきもののなのです。

オリーブ山での離反の予告

第 1 4 曲【20】 (26:30-32)

福音史家： Und da sie den Lobgesang gesprochen hatten,
gingen sie hinaus an den Ölberg.
Da sprach Jesus zu ihnen:

そして、彼らは賛美の歌を歌ってから、
オリーブ山へと出かけて行った。
その時、イエスは彼ら(弟子たち)に言った。

イエス： In dieser Nacht
werdet ihr euch alle ärgern an mir.
Denn es steht geschrieben:
Ich werde den Hirten schlagen,
und die Schafe der Herde
werden sich zerstreuen.
Wann ich aber auferstehe,
will ich vor euch hingehen in Galiläam.

今夜、
お前たちは皆、私に躓くだろう。
聖書にこう書いてあるからだ。
「私は羊飼いを打つ。
すると、群れの羊たちは
散り散りになるだろう」と。
しかし、私は復活した時には、※新 Wenn
お前たちより先にガリラヤへ行くつもりだ。

第 1 5 曲【21】 コラール

詞： Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」 第 5 節 旋律： C

Erkenne mich, mein Hüter,
mein Hirte, nimm mich an!
Von dir, Quell aller Güter,
ist mir viel Gut's getan.
Dein Mund hat mich gelabet
mit Milch und süßer Kost,
dein Geist hat mich begabet
mit mancher Himmelslust.

私を認めてください、私の牧者よ。
私の羊飼いや、私を受け入れてください！
すべての宝の泉であるあなたから
私に多くの良いことが行われました。
あなたの口は私を元気づけてくれました、
乳と甘い食べ物によって。
あなたの霊は私に与えました、
多くの天国の喜びを。

第 1 6 曲【22】 (26:33-35)

福音史家： Petrus aber antwortete und sprach zu ihm:

するとペテロが答えてイエスに言った

ペテロ： Wenn sie auch alle sich an dir ärgerten,
so will ich doch mich nimmermehr ärgern.

たとえ、皆があなたに躓いても、
私はあなたに決して躓きません。

福音史家： Jesus sprach zu ihm:

イエスは彼に言った。

イエス： Wahrlich, ich sage dir:
In dieser Nacht, ehe der Hahn krähet,
wirst du mich dreimal verleugnen.

まことにお前に言うておく。
今夜、鶏が鳴く前に、
お前は三度、私のことを否認するだろう。

福音史家： Petrus sprach zu ihm:

ペテロはイエスに言った。

ペテロ： Und wenn ich mit dir sterben müßte,
so will ich dich nicht verleugnen.

たとえ、あなたと共に死なねばならなくても、
私はあなたを決して否認しません。

福音史家： Desgleichen sagten auch alle Jünger.

弟子たちも皆、同じように言った。

第 17 曲【23】 コラール

詞： Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」 第 6 節 旋律： C

Ich will hier bei dir stehen;
verachte mich doch nicht!
Von dir will ich nicht gehen,
wenn dir dein Herze bricht.
Wenn dein Herz wird erblassen
im letzten Todesstoß,
als denn will ich dich fassen
in meinen Arm und Schoß.

私はここに、あなたの側に在ります。
どうか私を侮らないで下さい！
あなたのもとから私は離れません、
あなたの心が張り裂ける時も。
あなたの心が、
最後の死の衝撃で蒼ざめるであろう時、
私はあなたをしっかりと抱きましょう、
私の腕と膝に。

ゲッセマネの祈り

第 18 曲【24】 (26:36-38)

福音史家： Da kam Jesus mit ihnen zu einem Hofe,
der hieß Gethsemane,
und sprach zu seinen Jüngern:

イエスは弟子たちと一緒に
ゲッセマネという園に来て、
弟子たちに言った。

イエス： Setzet euch hie,
bis daß ich dort hingehge und bete.

ここに座っていなさい、
わたしが向こうへ行って祈っている間。

福音史家： Und nahm zu sich Petrum
und die zween Söhne Zebedäi
und fing an zu trauern und zu zagen.
Da sprach Jesus zu ihnen:

そして、ペテロおよび
二人のゼベダイの子らを連れて行ったが、
そこで、悲しみ怖れ始めた。
そして、イエスは彼らに言った。

イエス： Meine Seele ist betrübt bis an den Tod,
bleibet hie und wachet mit mir !

私の魂は死にそうなくらいに悲しい。
ここに留まり、私とともに目を覚ましていなさい。

第 19 曲【25】 レチタティーヴォ (テノール) と コラール

O Schmerz !
Hier zittert das gequälte Herz;
wie sinkt es hin, wie bleicht sein Angesicht !
Der Richter führt ihn vor Gericht.
Da ist kein Trost, kein Helfer nicht.
Er leidet alle Höllenqualen,
er soll vor fremden Raub bezahlen.
Ach, könnte meine Liebe dir,
mein Heil, dein Zittern und dein Zagen
vermindern oder helfen tragen,
wie gerne blieb ich hier !

ああ、私の愛が、できるなら、

ああ、苦痛よ！
苦しめられた心がここに震えている。
その心は何と崩折れ、御顔は何と蒼ざめているか！
裁き主は彼を法廷に引き立て、
そこは慰めも、助ける人もいない。
彼はあらゆる地獄の責苦に苦しみ、
他人の盗みの償いをしなくてはならない。
私の救いよ、あなたの震えと怖れを、
和らげるか、支え助けることができるなら、
私はどんなに喜んでここに留まることでしょう！

< コラール (合唱Ⅱ) > 詞： Johann Heermann 「Herzliebster Jesu」 第 3 節 旋律： A

Was ist die Ursach' aller solcher Plagen?
Ach, meine Sünden
haben dich geschlagen;
Ich, ach Herr Jesu,
habe dies verschuldet,
was du erduldet.

その全ての苦しみの原因は何ですか？
ああ、私の罪が
あなたを打ったのです。
主イエスよ、私が
この罪を犯したのです、
あなたが耐えておられるその罪を。

第 2 0 曲 【26】 アリア (テノール) & 合唱 II

Ich will bei meinem Jesu wachen.

So schlafen unsre Sünden ein.

Meinen Tod büßet seine Seelennot,
sein Trauren machet mich voll Freuden.

Drum muß uns sein verdienstlich Leiden
recht bitter und doch süße sein.

私はイエスの側で目覚めていよう。

そうすれば私たちの罪は眠りこむ。

私の死をイエスの魂の苦しみが償い、
イエスの悲しみが、私を喜びで満たす。

故に、彼の功德ある受難は我々にとって
実に苦いが、また甘くもあるに違いない。

第 2 1 曲 【27】 (26:39)

福音史家 : Und ging hin ein wenig,
fiel nieder auf sein Angesicht
und betete und sprach:

イエス : Mein Vater, ist's möglich,
so gehe dieser Kelch von mir;
doch nicht wie ich will, sondern wie du **willst**.

そして、少し進んで行き、
跪いて顔をひれ伏して、
祈って言った。

我が父よ、できることなら、
この杯を私から取り去ってください。 ※新 willt
しかし、私のではなく、あなたの望む通りに。

第 2 2 曲 【28】 レチタティーヴォ (バス)

Der Heiland fällt vor seinem Vater nieder;
dadurch erhebt er mich und alle
von unserm Falle
hinauf zu Gottes Gnade wieder.
Er ist bereit,
den Kelch, des Todes Bitterkeit zu trinken,
in welchen Sünden dieser Welt
gegossen sind und häßlich stinken,
weil es dem lieben Gott gefällt.

救い主は父の御前にひざまずいた。
それによって彼は、私と全ての人を、
我々の墮落から
神の恵みへと、再び、すくい上げてくださる。
彼は杯を、死の苦みを飲む
準備をされている。
その杯には、この世の罪が
注がれて、厭うべき悪臭を放っている。
これを飲むことが、愛する神の意に適うことだから。

第 2 3 曲 【29】 アリア (バス)

Gerne will ich mich bequemen,
Kreuz und Becher anzunehmen,
trink' ich doch dem Heiland nach.
Denn sein Mund,
der mit Milch und Honig fließet,
hat den Grund
und des Leidens herbe Schmach
durch den ersten Trunk versüßet.

喜んで私は承知しよう、
十字架と杯を受けることを。
もちろん私は救い主にならって飲もう。
なぜなら、彼の口は、
そこから乳と蜂蜜が流れ出て、
それが、大地と
受難の苦い恥辱を
最初のひと飲みで、甘くしてくれたのだから。

第 2 4 曲 【30】 (26:40-42)

福音史家 : Und er kam zu seinen Jüngern
und fand sie schlafend und sprach zu ihnen:

イエス : Könnet ihr denn nicht eine Stunde
mit mir wachen?
Wachet und betet,
daß ihr nicht in Anfechtung fallet!
Der Geist ist willig,
aber das Fleisch ist schwach.

そしてイエスは弟子たちのところへ戻り、
彼らが眠っているのを見て、彼らに言った。

さて、お前たちは、ひと時も
私とともに目を覚ましていられないのか?
目を覚まして祈っていないさい!
誘惑に陥らぬように。
精神はしっかりしていても、
肉体は弱いものだ。

福音史家 : Zum andernmal ging er hin, betete und sprach:

さらにもう一度、向こうへ行き、祈って言った。

イエス : Mein Vater, ist's nicht möglich,
daß dieser Kelch von mir gehe,
ich trinke ihn denn, so geschehe dein Wille.

我が父よ、この杯を私から取り去ることが
かなわないのであれば、私はそれを飲みます、
あなたの御心が行われますように。

第 2 5 曲 【31】 コラール

詞 : Albrecht von Preußen (1490-1568, プロイセン公) 旋律 : Claudin de Sermisy (仏, 1490c.-1562)

Was mein Gott will, das g'scheh' allzeit,
sein Will', der ist der beste,
zu helfen den'n er ist bereit,
die an ihn **glauben** feste,
Er hilft aus Not, der fromme Gott,
und züchtigt mit Maßen.
Wer Gott vertraut, fest auf ihn baut,
den will er nicht verlassen.

私の神が意図することが、常に行われますように。
神の意志、それは最良のものなのです。
神は、助けようと備えているのです、
神を堅く信じる者たちを。 ※新 **gläuben**
彼は苦しみから助けてくれる、誠実な神、
そして節度をもって懲らしめもする。
神を信頼し、しっかりと神を礎とする人、
その人を、神は見捨てないでしょう。

イエス捕縛

第 2 6 曲 【32】 (26:43-50)

福音史家 : Und er kam und fand sie aber schlafend,
und ihre Augen waren voll Schlaf's.
Und er ließ sie und ging abermal hin
und betete zum drittenmal
und redete dieselbigen Worte.
Da kam er zu seinen Jüngern
und sprach zu ihnen:

イエスが戻ると、弟子たちが眠っているのを見た。
彼らの眼は眠気でいっぱいだったのだ。
そこでイエスは彼らから離れ、また向こうへ行って、
三度も祈り、
同じ言葉を語った。
それからイエスは、弟子たちのところに戻って来て、
彼らに言った。

イエス : Ach! wollt ihr nun schlafen und ruhen?
Siehe, die Stunde ist hie,
daß des Menschen Sohn in der Sünder Hände
überantwortet wird.
Stehet auf, lasset uns gehen!
Siehe, er ist da, der mich verrät!

ああ、お前たちはまだ眠り休むつもりなのか？
見よ、時が来た。
人の子は罪人の手に
引き渡される。
立て、行こう。
見よ、わたしを裏切る者がそこにいる。

福音史家 : Und als er noch redete, siehe,
da kam Judas, der Zwölfen einer,
und mit ihm eine große Schar
mit Schwertern und mit Stangen
von den Hohenpriestern
und Ältesten des Volks.
Und der Verräter hatte ihnen
ein Zeichen gegeben und gesagt:
„Welchen ich küssen werde, der ist's,
den greifet!“
Und alsbald trat er zu Jesu und sprach:

イエスがまだ話しているうちに、見よ、
十二人の一人であるユダがやって来た。
そして彼とともに大勢の群衆が
剣や棒を持ってやって来た。
祭司長たちや民の長老たちが
遣わしたのである。
この裏切り者(ユダ)は、前もって、
彼ら(群衆)に合図を与えて、こう言っていた。
「わたしが口づけするのが、その人だ。
それを捕まえろ」と。
ユダはすぐにイエスに近寄り、言った。

ユダ : Gegrüßet seist du, Rabbi!

挨拶を受けて下さい、先生！

福音史家 : Und küssete ihn. Jesus aber sprach zu ihm:

そして彼に口づけした。イエスは彼に言った。

イエス : Mein Freund, warum bist du kommen?

我が友よ、なぜあなたは来たのか？

福音史家 : Da traten sie hinzu
und legten die Hände an Jesum und griffen ihn.

すると人々は進み寄り、
イエスに手をかけて捕らえた。

第 2 7 a 曲 【33】 二重唱 (ソプラノ・アルト) & 合唱 II

So ist mein Jesus nun gefangen.

こうしてイエスは今や捕らえられました。

Laßt ihn, haltet, bindet nicht !

彼を放せ、やめろ、縛るな !

Mond und Licht ist vor Schmerzen untergangen,
weil mein Jesus ist gefangen.
Sie führen ihn, er ist gebunden.

月も光も心痛のため沈んでしまいました。
私のイエスが捕らえられてしまったから。
彼らはイエスを連行し、彼は縛られたのです。

第 2 7 b 曲 二重合唱

Sind Blitze, sind Donner
in Wolken verschwunden?
Eröffne den feurigen Abgrund, o Hölle,
zertrümmre, verderbe,
verschlänge, zerschelle
mit plötzlicher Wut
den falschen Verräter,
das mörderische Blut!

稲妻と雷鳴は
雲のなかに消えてしまったのか?
火の深淵を開け、おお地獄よ!
粉々に打ち砕け、破壊せよ、
飲み込んでしまえ、粉々にしてしまえ、
突然の激しい怒りでもって、
偽りの裏切り者を!
殺人者の血統を!

第 2 8 曲 【34】 (26:51-56)

福音史家: Und siehe,
einer aus denen, die mit Jesu waren,
reckete die Hand aus
und schlug des Hohenpriesters Knecht
und hieb ihm ein Ohr ab.
Da sprach Jesus zu ihm:

イエス: Stecke dein Schwert an seinen Ort;
denn wer das Schwert nimmt,
der soll durchs Schwert umkommen.
Oder meinst du,
daß ich nicht könnte meinen Vater bitten,
daß er mir zuschickte
mehr denn zwölf Legion Engel?
Wie würde aber die Schrift erfüllet?
Es muß also gehen.

すると見よ、
イエスと一緒にいた者の一人が、
手を伸ばして(剣を抜き)、
大祭司の手下に打ちかかって、
彼の片方の耳を切り落とした。
そこで、イエスはその(切りかかった)者に言った。

剣を鞘(しかるべき場所)に収めなさい。
なぜなら、剣を取る者は、
剣によって滅びることになっているからである。
それともお前は、
私が父にお願いできないと思っているのか?
(私がお願いすれば)、父は
十二軍団以上の天使たちを送ってくださるであろう。
しかしそれでは、聖書はどうして実現されようか?
こうならなければならないのだ。

福音史家: Zu der Stund' sprach Jesus zu den Scharen:

イエス: Ihr seid ausgegangen als zu einem Mörder,
mit Schwertern und mit Stangen, mich zu fahen;
bin ich doch täglich bei euch gesessen
und habe gelehret im Tempel,
und ihr habt mich nicht gegriffen.
Aber das ist alles geschehen,
daß erfüllet würden die Schriften der Propheten.

またその時、イエスは群衆に対して言った。

あなたたちは、まるで殺人者に対するように、
剣や棒を持って、私を捕らえにやって来た。
私は毎日、あなたたちの側に座って、
神殿の中で教えていたのに、
あなたたちは私を捕らえなかった。
しかし、この全てのことが起こったのは、
預言者たちの書いたことが実現するためなのだ。

福音史家: Da verließen ihn alle Jünger und flohen.

すると弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げ去った。

第 2 9 曲 【35】 コラール

詞: Sebald Heyden(1499-1561) 旋律: Matthias Greitter(1495-1550)

O Mensch, beweine dein' Sünde groß,
darum Christus sein's Vaters Schoß
äußert und kam auf Erden;
von einer Jungfrau rein und zart
für uns er hie geboren ward,
er wollt' der Mittler werden.
Den Toten er das Leben gab
und legt' dabei all' Krankheit ab,
bis sich die Zeit herdrange,
daß er für uns geopfert würd',
trüg' unsrer Sünden schwere Bürd'
wohl an dem Kreuze lange.

おお人よ、汝の罪の大なることを嘆け。
そのためにキリストは父の懷から
現れ、地上に降りて来られた。

純粋な優しい乙女から、
私たちのためにこの世に生まれて、
仲介役になろうとされた。

彼は死者たちに生命を与え、
彼らからすべての病を取り去って下さった。
時が迫るまで。

(時が来て) 彼は、私たちのために犠牲となり、
私たちの罪の重い荷を背負って下さった。
十字架の上において長い間、十分に。

第Ⅱ部

第30曲【36】 アリア（アルト）& 合唱Ⅱ

Ach, nun ist mein Jesus hin!
Ist es möglich, kann ich schauen?
Ach, mein Lamm in Tigerklauen!
Ach, wo ist mein Jesus hin?
Ach, was soll ich der Seele sagen,
wenn sie mich wird ängstlich fragen?
Ach, wo ist mein Jesus hin?

Wo ist denn dein Freund hingegangen,
o du Schönste unter den Weibern?
Wo hat sich dein Freund hingewandt?
So wollen wir mit dir ihn suchen.

ああ、今や私のイエスは行ってしまった！
私は(彼を)見ることはできますか？
ああ、私の子羊は虎の爪にかかってしまった！
ああ、どこへ私のイエスは行ってしまったのですか？
ああ、私は魂に何と言ったらよいのでしょうか、
もし彼女(魂=女性名詞)が私に不安そうに尋ねたら？
ああ、どこに私のイエスは行ってしまったの？と

どこにあなたの恋人は行ってしまったのですか？
おお、女たちのうちで最も美しい人よ
どこへあなたの恋人は向かったのですか？
それでは、我々もあなたと一緒に彼を探しましょう。

大祭司の審問

第31曲【37】(26:57-60)

福音史家： Die aber Jesum gegriffen hatten,
führten ihn zu dem Hohenpriester Kaiphas,
dahin die Schriftgelehrten
und Ältesten sich versammelt hatten.

Petrus aber folgte ihm nach von ferne
bis in den Palast des Hohenpriesters
und ging hinein und **setzte** sich bei die Knechte,
auf daß er sähe, wo es hinaus wollte.

Die Hohenpriester aber
und Ältesten und der ganze Rat
suchten falsche Zeugnis wider Jesum,
auf daß sie ihn töteten, und **fanden** keines.

さて、イエスを捕らえた人々は、
彼を大祭司カイファのところへ連行した。
そこには律法学者たちや
長老たちが集まっていた。

一方、ペテロは、大祭司の屋敷まで
イエスの後を離れてついて行き、
屋敷の中庭に入って、下僕たちの側に座り、※新旧 **satzte**
ことの成り行きがどこに向かうか見ようとした。

さて、祭司長たち、
長老たち、そして最高法院の全議員は
イエスに対する偽りの証拠を求め、
彼を処刑しようとしたが、何も見つけられなかった。

※新旧 **funden**

第32曲【38】 コラール

詞：Adam Reusner (1496?-1575?) 旋律：Sethus Calvisius (1556-1615)

Mir hat die Welt trüglich gericht'
mit Lügen und mit falschem G'dicht,
viel Netz' und heimlich Stricken.
Herr, nimm mein wahr in dieser G'fahr,
b'hüt mich für falschen Tücken!

世は私を偽りの裁きにかけた。
嘘と、作り話で、
多くの網と、秘密の網で。
主よ、この危険の中で、私を正しいと認めて、
私を偽りの策略から守ってください。

第33曲【39】(26:60-63)

福音史家： Und wiewohl viel falsche Zeugen herzutraten,
fanden sie doch keins.
Zuletzt traten herzu zween falsche Zeugen
und sprachen:

多くの偽証人が現れたにもかかわらず、
彼らは証拠を全く見つけられなかった。※新旧 **funden**
最後に二人の偽証人が現れて
言った。

偽証人： Er hat gesagt:
Ich kann den Tempel Gottes abbrechen
und in dreien Tagen denselben bauen.

彼はこう言っていました。
「私は神殿を打ち崩し、
三日で建てることができる」と。

福音史家： Und der Hohepriester **stand** auf
und sprach zu ihm:

そこで大祭司は立ち上がり、 ※新旧 **stund**
イエスに言った。

大祭司： Antwortest du nichts zu dem,
das diese wider dich zeugen?

お前はこれに対して何も答えないのか？
この者たちはお前に対し不利な証言をしているが？

福音史家： Aber Jesus schwieg stille.

しかしイエスは静かに黙っていた。

第 3 4 曲【40】 レチタティーヴォ (テノール)

Mein Jesus schweigt
zu falschen Lügen stille,
um uns damit zu zeigen,
daß sein Erbarmens voller Wille
vor uns zum Leiden sei geneigt,
und daß wir in dergleichen Pein
ihm sollen ähnlich sein
und in Verfolgung stille schweigen.

私のイエスは黙っている、
偽りの証言に対して静かに。
それによって、私たちに示すために。
彼の慈悲に満ちた御心は
私たちのために受難をする気があることを。
また、私たちがそのような苦しみを受ける時には、
イエスと同じように
迫害の中でも静かに黙っているべきことを。

第 3 5 曲【41】 アリア (テノール)

Geduld,
wenn mich falsche Zungen stechen.
Leid' ich wider meine Schuld
Schimpf und Spott,
ei, so mag der liebe Gott
meines Herzens Unschuld rächen.

耐え忍べ、
私を偽りの舌が刺すときも。
私が、(いわれの無い)罪に対して、
侮辱と嘲りを耐え忍ぶ時、
ああ、そう、愛する神は
私の心の無実を報いてくださるだろう。

第 3 6 a 曲【42】 (26:63-66)

福音史家： Und der Hohepriester antwortete
und sprach zu ihm:

大祭司は(イエスの沈黙に)答えて
彼に言った。

大祭司： Ich beschwöre dich bei dem lebendigen Gott,
daß du uns sagest,
ob du seiest Christus, der Sohn Gottes?

私は生ける神に誓ってお前に言う、
我々に答えよ、
お前は神の子たるキリストなのかどうか?

福音史家： Jesus sprach zu ihm:

イエスは彼に言った。

イエス： Du sagest's.
Doch sage ich euch:
Von nun an wird's geschehen,
daß ihr sehen werdet des Menschen Sohn
sitzen zur Rechten der Kraft
und kommen in den Wolken des Himmels.

あなたがそう言っているのだ。
しかし、わたしはあなた方に言う。
今より後、起こることだが、
あなた方は見るだろう、人の子が
力ある方の右に座り、
天の雲に乗って来るのを。

福音史家： Da zerriß der Hohepriester seine Kleider
und sprach:

そこで、大祭司は自分の服を引き裂いて
言った。

大祭司： Er hat Gott gelästert;
was dürfen wir weiter Zeugnis?
Siehe,
itzt habt ihr seine Gotteslästerung gehört.
Was dünket euch?

彼は神を冒瀆した。
我々はこれ以上の証拠が必要だろうか?
見よ、
今あなた方は神への冒瀆を聞いた。
あなた方には何と思われるか?

福音史家： Sie antworteten und sprachen:

彼らは答えて言った。

第 3 6 b 曲 (26:66) 合唱 I II

Er ist des Todes schuldig!

彼は、死罪だ!

第 3 6 c 曲【43】 (26:67-68)

福音史家： Da speieten sie aus in sein Angesicht
und schlugen ihn mit Fäusten.
Etliche aber schlugen ihn ins Angesicht
und sprachen:

彼らは、イエスの顔に唾を吐き、
彼を拳で殴った。
何人かは彼の顔を殴って
言った。

第36d 曲 (26:68) 二重合唱

Weissage uns, Christe,
wer ist's, der dich schlug?

我々に言い当ててみろ、キリストよ。
お前を殴ったのは誰か？

第37 曲 【44】 コラール

詞 : Paul Gerhardt 「O Welt, sieh hier dein Leben」 第3節 旋律 : B

Wer hat dich so geschlagen,
mein Heil, und dich mit Plagen
so übel zugericht'?
Du bist ja nicht ein Sünder
wie wir und unsre Kinder;
von Missetaten weißt du nicht.

誰があなたをこのように打ったのですか？
我が救いよ、誰があなたを苦しみでもって、
そんなにもひどい目に合わせたのですか？
あなたは罪人では決してありません、
私たちや、私たちの子供らのように。
あなたは悪事について何も知らないのです。

ペテロの否認

第38a 曲 【45】 (26:69-73)

福音史家 : Petrus aber saß draußen im Palast;
und es trat zu ihm eine Magd und sprach:

さて、ペテロは屋敷中庭の屋外に座っていた。
そこへ一人の女中が彼に歩み寄って言った。

女中1 : Und du warest auch mit dem Jesu aus Galiläa.

あなたもあのガリラヤのイエスと一緒にいた。

福音史家 : Er leugnete aber vor ihnen allen und sprach:

しかしペテロは皆の前でそれを否定して言った。

ペテロ : Ich weiß nicht, was du sagest.

あなたが何を言っているのか、私はわからない。

福音史家 : Als er aber zur Tür hinausging,
sahe ihn eine andere
und sprach zu denen, die da waren:

ペテロが門の方へ出て行くと、
また一人の女中が彼を見て、
そこに居た人々に言った。

女中2 : Dieser war auch mit dem Jesu von Nazareth.

この人もあのナザレのイエスと一緒にいた。

福音史家 : Und er leugnete abermal und schwur dazu:

ペテロは再び否定して、さらに誓って言った。

ペテロ : Ich kenne des Menschen nicht.

私はその人を知らない。

福音史家 : Und über eine kleine Weile
traten hinzu, die da **standen**,
und sprachen zu Petro:

少しして、
そこに立っていた人々が歩み寄ってきて、
ペテロに言った。
※新 stunden

第38b 曲 (26:73) 合唱 II

Wahrlich, du bist auch einer von denen;
denn deine Sprache verrät dich.

確かに、お前もあの人たちの一人だ。
なぜなら、お前の詛りがお前を裏切っている。

第38c 曲 【46】 (26:74-75)

福音史家 : Da hub er an,
sich zu verfluchen und zu schwören:

彼は、
呪い、また誓い始めた。

ペテロ : Ich kenne des Menschen nicht.

私はその人を知らない。

福音史家 : Und alsbald krähete der Hahn.
Da dachte Petrus an die Worte Jesu,
da er zu ihm sagte:
Ehe der Hahn krähen wird,
wirst du mich dreimal verleugnen.
Und ging heraus und weinete bitterlich.

すると直ちに、鶏が鳴いた。
ペテロは、イエスの言葉を思い出した。
イエスは彼にこう言ったのだった。
「鶏が鳴く前に、
お前は三度私を否定するだろう」と。
そしてペテロは外に出て、痛ましく泣いた。

第 3 9 曲 【47】 アリア (アルト) ※メンデルスゾーン版：ソプラノが歌う。

Erbarme dich, mein Gott,
um meiner Zähren willen !
Schaue hier,
Herz und Auge weint vor dir bitterlich.

憐れみ給え、我が神よ
私の涙ゆえに！
ここをご覧ください。
心も目もあなたの前で痛ましく泣いています。

第 4 0 曲 【48】 コラール 詞：Johann von Rist (1607-77) 「Werde munter, mein Gemüte」 第 5 節 旋律：Johann Schop (1590-1667)

Bin ich gleich von dir gewichen,
stell' ich mich doch wieder ein;
hat uns doch dein Sohn verglichen
durch sein' Angst und Todespein.
Ich verleugne nicht die Schuld;
aber deine Gnad' und Huld
ist viel größer als die Sünde,
die ich stets in mir befinde.

私は、たとえあなたから離れても、
きっと再び(あなたの元に)戻ってきます。
あなたの御子が私たち※を仲介したのです。
彼の恐れと死の苦しみによって。
私は罪を否定しません。
しかし、あなたの慈悲と恩顧は、
罪よりはるかに大きいのです、
私が常に私の中に見い出す(罪よりも)。

※「あなた」＝神、「私たち」＝神と私。御子イエスが、神と私の間を仲介して和解させた。

ユダの後悔と自殺

第 4 1 a 曲 【49】 (27:1-4)

福音史家： Des Morgens aber hielten
alle Hohenpriester und die Ältesten des Volks
einen Rat über Jesum, daß sie ihn töteten.
Und banden ihn, führten ihn hin
und überantworteten ihn
dem Landpfleger Pontio Pilato.
Da das sahe Judas, der ihn verraten hatte,
daß er verdammt war zum Tode,
gereuete es ihn,
und brachte herwieder die dreißig Silberlinge
den Hohenpriestern und Ältesten und sprach:

さて、夜が明けると、
全ての祭司長たちと民の長老たちは、
イエスについて協議をして、彼を殺そうとした。
そしてイエスを縛って連行していき、 ※新 bunden
彼を総督ポンティオ・ピラトに
引き渡した。
そのころ、イエスを裏切ったユダは、
イエスが死の弾劾を受けたのを見て、
後悔し、
銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに
返そうと持って行き、言った。

ユダ： Ich habe übel getan,
daß ich unschuldig Blut verraten habe.

私は悪事を行ってしまいました。
罪の無い人の血を裏切って売り渡したのです。

福音史家： Sie sprachen:

彼らは言った。

第 4 1 b 曲 (27:4) 二重合唱

Was gehet uns das an? Da siehe du zu!

それが我々に何の関係がある？ 自分で見るがよい！

第 4 1 c 曲 【50】 (27:5-6)

福音史家： Und er warf die Silberlinge in den Tempel,
hub sich davon, ging hin
und erhängete sich selbst.
Aber die Hohenpriester nahmen die Silberlinge
und sprachen:

そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで、
そこから立ち去って行き、
自ら首をつって死んだ。
祭司長たちは銀貨を取って、
言った。

祭司長ら： Es taugt nicht,
daß wir sie in den Gotteskasten legen,
denn es ist Blutgeld.

これは
神殿の献金箱に入れるのには適さない。
なぜならそれは血の代金だから。

第 4 2 曲 【51】 アリア (バス)

Gebt mir meinen Jesum wieder!
Seht, das Geld, den Mörderlohn,
wirft euch der verlorne Sohn
zu den Füßen nieder!

私のイエスを返せ！
見よ、この金殺人の報酬だ。
放蕩息子はお前たちの足元に
(その金を)投げ捨てたではないか！

第 4 3 曲 【52】 (27:7-10)

福音史家： Sie hielten aber einen Rat
und kauften einen Töpfersacker
darum zum Begräbnis der Pilger.
Daher ist derselbige Acker genennet
der Blutacker bis auf den heutigen Tag.
Da ist erfüllet,
das gesagt ist durch den Propheten Jeremias,
da er spricht:
„Sie haben genommen dreißig Silberlinge,
damit bezahlet ward der Verkaufte,
welchen sie kauften von den Kindern Israel,
und haben sie gegeben um einen Töpfersacker,
als mir der Herr befohlen hat.“

彼らは協議をして、
(その金で)「陶工の畑」を買った。
巡礼者の埋葬地にするためである。
この事から、その畑は
今日に至るまで「血の畑」と呼ばれている。
ここに
預言者エレミヤを通して語られたことが実現した。
エレミヤはこう語っている。
「彼らは銀貨三十枚を取り、
それによって売られた者の代金を支払った。(売られた者とは)
彼らがイスラエルの子から買った者のことである。
彼らは陶工の畑の代金を支払ったのである。
主が私に命じたように。」と。

総督ピラトの尋問と判決 (27:11-14)

Jesus aber **stand** vor dem Landpfleger;
und der Landpfleger fragte ihn und sprach:

さて、イエスは総督の前に立った。 ※新 stund
総督はイエスに問うて言った。

ピラト： Bist du der **Juden** König?

お前はユダヤ人の王なのか? ※新 Jüden

福音史家： Jesus aber sprach zu ihm:

イエスは総督に言った。

イエス： Du sagest's.

あなたがそう言っているのだ。

福音史家： Und da er verklagt **ward**
von den Hohenpriestern und Ältesten,
antwortete er nichts.
Da sprach Pilatus zu ihm:

イエスは祭司長や長老たちから ※新 war
訴えられていたが、
何も答えなかった。
するとピラトはイエスに言った。

ピラト： Hörest du nicht,
wie hart sie dich verklagen?

お前は聞こえないのか、
どんなに厳しく彼らがお前を告発しているか?

福音史家： Und er antwortete ihm nicht auf ein Wort,
also, daß sich auch
der Landpfleger sehr wunderte.

だがイエスは彼に一言も答えなかった。
それ故また、
総督は大変不思議に思った。

第 4 4 曲 【53】 コラール 詞： Paul Gerhardt 「Befiehl du deine Wege」 第 1 節 本来は別旋律だが、ここでは C 旋律で歌われる。

Befiehl du deine Wege
und was dein Herze kränkt
der allertreusten Pflege
des, der den Himmel lenkt.
Der Wolken, Luft und Winden
gibt Wege, Lauf und Bahn,
der wird auch Wege finden,
da dein Fuß gehen kann.

委ねよ、お前は、お前の道と、
お前の心を傷つけていることを、
全く誠実なご加護に
天を統べる方の(ご加護に)。
その方は雲に、大気に、そして風に対して、
道、道筋、軌道を与えてくださる。
その方が新たな道を見つけてくれるだろう、
お前が歩むことのできる道を。

第 4 5 a 曲 【54】 (27:15-22)

福音史家： Auf das Fest aber
hatte der Landpfleger Gewohnheit,
dem Volk einen Gefangenen loszugeben,
welchen sie wollten.
Er hatte aber zu der Zeit einen Gefangenen,
einen sonderlichen vor andern,
der hieß Barrabas.
Und da sie versammelt waren,
sprach Pilatus zu ihnen:

さて、祭の間、
総督には慣習があった。
民衆が希望する囚人を一人
釈放するというものである。
そのころ、
他の者よりも特別な(悪い)囚人がいた。
彼の名はバラバといった。
人々が集まって来た時、
ピラトは彼らに言った。

ピラト： Welchen wollet ihr, daß ich euch losgebe?
Barrabam oder Jesum,
von dem gesagt wird, er sei Christus?

福音史家： Denn er wußte wohl,
daß sie ihn aus Neid überantwortet hatten.
Und da er auf dem Richtstuhl saß,
schickete sein Weib zu ihm und ließ ihm sagen:

ピラト妻： Habe du nichts zu schaffen
mit diesem Gerechten;
ich habe heute viel erlitten
im Traum von seinetwegen!

お前たちはどちらを私が釈放することを望むか？
バラバか、
それともキリストであると言われているイエスか？

というのは、ピラトはよく分かっていたのである。
彼らがイエスを引き渡したのは嫉みからだ。
また、ピラトが裁判の席に座っている時に、
彼の妻が彼に使者を遣わして、彼に言わせた。

あの正しい人と、
事を構えないでください。
彼のせいで、私は昨夜（日没以後が“今日”なので heute）、
夢の中で大変な苦痛を受けました。

福音史家： Aber die Hohenpriester und die Ältesten
überredeten das Volk,
daß sie um Barrabas bitten sollten
und Jesum umbrächten.
Da antwortete nun der Landpfleger
und sprach zu ihnen:

しかし、祭司長たちや長老たちは、
群衆を説得していた。
バラバの(釈放の)ために請願すべきだ、
そしてイエスを殺そう、と。
さて、総督は答えて
彼らに言った。

ピラト： Welchen wollt ihr unter diesen zweien,
den ich euch soll losgeben?

この二人のうち、お前たちは、
私がどちらを釈放すべきと主張するのか？

福音史家： Sie sprachen:

彼らは言った。

合唱 I II： Barrabam !

バラバを！

福音史家： Pilatus sprach zu ihnen:

ピラトは彼らに言った。

ピラト： Was soll ich denn machen mit Jesu,
von dem gesagt wird, er sei Christus?

では、キリストであると言われるイエスについては、
私はどうすべきなのか？

福音史家： Sie sprachen alle:

彼らはこぞって言った。

第 4 5 b 曲 (27:22) 合唱 I II

Laß ihn kreuzigen!

彼を十字架につけろ！

第 4 6 曲 【55】 コラール

詞： Johann Heermann 「Herzliebster Jesu」 第 4 節 旋律： A

Wie wunderbarlich ist doch diese Strafe !
Der gute Hirte leidet für die Schafe,
die Schuld bezahlt der Herre,
der Gerechte, für seine Knechte.

それにしても何と驚くべきことだ、この刑罰は！
よい羊飼いが羊のために苦しみを受け、
正しい人である主が
彼の下僕のために、罪の償いをするとは！

第 4 7 曲 【56】 (27:23)

福音史家： Der Landpfleger sagte:

総督は言った。

ピラト： Was hat er denn Übels getan?

いったい彼が何の悪事を行ったというのか？

第 4 8 曲 【57】 レチタチーヴォ (ソプラノ)

Er hat uns allen wohlgetan,
den Blinden gab er das Gesicht,
die Lahmen macht' er gehend,
er sagt' uns seines Vaters Wort,
er trieb die Teufel fort,
Betrübte hat er aufgerichtet',
er nahm die Sünder auf und an.
Sonst hat mein Jesus nichts getan.

彼は我々皆を元気づけてくれました。
彼は目の見えない人に視覚を与え、
麻痺した人を歩いて行かせました。
彼は私たちに彼の父の言葉を語り、
悪魔を追い払い、
悲しむ人を元気づけ、
罪人を迎え入れました。
それ以外に私のイエスは何もなさいませんでした。

第49曲【58】 アリア（ソプラノ） ※メンデルスゾーン版：後奏カット。

Aus Liebe will mein Heiland sterben,
von einer Sünde weiß er nichts,
daß das ewige Verderben
und die Strafe des Gerichts
nicht auf meiner Seele bliebe.

愛ゆえに、私の救い主は死のうとしておられます。
彼は一つの罪も知らないのに。
永遠の破滅と
裁きの刑罰が
私の魂の上にとどまらないように、と。

第50a曲【59】(27:23)

福音史家： Sie schriegen aber noch mehr und sprachen:

しかし、群衆はさらに一層、叫んで言った。

第50b曲(27:23) 合唱 I II

Laß ihn kreuzigen!

彼を十字架につけろ！

第50c曲(27:24-25)

福音史家： Da aber Pilatus sahe, daß er nichts schaffete,
sondern daß ein viel größer Getümmel ward,
nahm er Wasser und
wusch die Hände vor dem Volk und sprach:

ピラトは、自分には何も事を切り抜けるすべはなく、
かえってより大きな騒動が起こりそうだ、と見て、
水を取り、
民衆の前で両手を洗って、言った。

ピラト： Ich bin unschuldig
an dem Blut dieses Gerechten, sehet ihr zu.

この正しい人の血について、
私には責任がない。お前たち、自分で見るがよい。

福音史家： Da antwortete das ganze Volk und sprach:

すると民衆全員が答えて言った。

第50d曲(27:25) 合唱 I II

Sein Blut komme über uns
und unsre Kinder.

彼の血は、我々と
その子孫を襲うがいい。

鞭打ち

第50e曲(27:26)

福音史家： Da gab er ihnen Barrabam los;
aber Jesum ließ er geißeln
und überantwortete ihn,
daß er gekreuziget würde.

そこで、ピラトは彼らにバラバを釈放してやり、
一方、イエスを鞭打たせ、
そして彼を十字架につけるために
彼らに引き渡した。

第51曲【60】 レチタティーヴォ（アルト）

Erbarm es Gott!
Hier steht der Heiland angebunden.
O Geißelung, o Schläg', o Wunden!
Ihr Henker, haltet ein!
Erweicht euch der Seelen Schmerz,
der Anblick solches Jammers nicht?
Ach ja, ihr habt ein Herz,
das muß der Martersäule gleich
und noch viel härter sein.
Erbarmt euch, haltet ein!

神よ、憐れみを！
ここに救い主は縛りつけられて立っておられる。
おお、鞭打ち、殴打、傷！
お前たち死刑執行人、やめろ！
魂の痛みは、お前たちの心を動かさないのか？
このような悲歎の光景は(心を動かさないのか)？
ああ、そうだ！ お前たちは心を持っていても、
それは拷問の柱と同じようなもの、
それよりも一層苛烈なものに違いない。
お前たちよ、憐れみを持って！ やめろ！

第52曲【61】 アリア（アルト）

Können Tränen meiner Wangen
nichts erlangen,
o, so nehmt mein Herz hinein!
Aber laßt es bei den Fluten,
wenn die Wunden milde bluten,
auch die Opferschale sein!

私の頬の涙が
何の役にも立たないとしても、
おお、私の心を受け入れてください！
それ(私の心)を、その流れの側で使って下さい、
その傷が緩やかに血を流す時、
捧げ物の器として！

第 5 3 a 曲 【62】 (27:27-29)

福音史家： Da nahmen die Kriegsknechte des Landpflegers
Jesum zu sich in das Richthaus
und sammelten über ihn die ganze Schar
und zogen ihn aus
und legeten ihm einen Purpurmantel an
und flochten eine dornene Krone
und satzten sie auf sein Haupt
und ein Rohr in seine rechte Hand
und beugeten die Knie vor ihm
und spotteten ihn und sprachen:

それから、総督の兵士たちは、
イエスを総督官邸の中に連れて行き、
部隊全員をイエスの周りに集めた。
そして、イエスの服を脱がして、
紫の外套を着せ、
茨の冠を編んで、
それを彼の頭に載せ、
また、右手に葦を持たせて、
彼の前にひざまずき、
彼を嘲って言った。

第 5 3 b 曲 (27:29) 二重合唱

Gegrüßet seist du, **Judenkönig** !

ごきげんよう、ユダヤの王よ！ ※新 Jüden-

第 5 3 c 曲 (27:30)

福音史家： Und speieten ihn an und nahmen das Rohr
und schlugen damit sein Haupt.

また、彼に唾を吐き、葦を取り上げて、
それで彼の頭を叩いた。

第 5 4 曲 【63】 コラール

詞： Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」 第 1・2 節 旋律： C

O Haupt voll Blut und Wunden,
voll Schmerz und voller Hohn,
o Haupt, zu Spott gebunden
mit einer Dornenkrön',
o Haupt, sonst schön gezieret
mit höchster Ehr' und Zier,
jetzt aber hoch schimpfiet,
gegrüßet seist du mir!

おお、血と傷にまみれた御頭よ、
苦痛と、嘲笑に充ちた(御頭よ)、
おお、嘲りのために
茨の冠で縛られた御頭よ、
おお、御頭よ、さもなければ美しく
最高の栄誉と誇りで飾られていたのに、
今や甚だしく辱められた(御頭よ)、
私の心からの挨拶を受け入れてください。

Du edles Angesichte,
vor dem sonst schrickt und scheut
das große Weltgewichte,
wie bist du so bespeit,
wie bist du so erleichtet!
Wer hat dein Augenlicht,
dem sonst kein Licht nicht gleicht,
so schändlich zugericht'?

気高き御顔よ、
いつもなら世の権威すらも ※新 dafür
(あなたの御顔に) 畏怖し驚くものを。
あなたはかくも唾をかけられ、
何と蒼ざめておられることか！
あなたの眼の輝き、
それは本来、どんな光とも比べられないものののに、
誰が、そんなにも卑劣に損ねたのですか？

ゴルゴタ・十字架

第 5 5 曲 【64】 (27:31-32)

福音史家： Und da sie ihn verspottet hatten,
zogen sie ihm den Mantel aus
und zogen ihm seine Kleider an
und führten ihn hin, daß sie ihn kreuzigten.
Und indem sie hinausgingen,
fanden sie einen Menschen von Kyrene
mit Namen Simon;
den **zwangen** sie, daß er ihm sein Kreuz trug.

彼ら(兵士たち)はイエスを嘲弄して、
外套を脱がせて、
彼の(元の)服を着せ、
彼を十字架につけるために連行して行った。
彼らは、出て行く時に、
シモンという名前の ※新 finden
キレネ人を見だし、 ※新 zwungen
彼に強制して、イエスの十字架を担がせた。

第 5 6 曲 【65】 レチタティーヴォ (バス)

Ja freilich will in uns das Fleisch und Blut
zum Kreuz gezwungen sein;
je mehr es unsrer Seele gut,
je herber geht es ein.

そう、もちろん、私たちの中の肉と血は
十字架につけられることを強いられるだろう。
私たちの魂にとって良いものほど、
より苦くなるのだから。

第 5 7 曲【66】 アリア (バス)

Komm, süßes Kreuz, so will ich sagen,
mein Jesu, gib es immer her!
Wird mir mein Leiden einst zu schwer,
so hilfst du mir es selber tragen.

来たれ甘き十字架よ、そう私は言おう。
私のイエスよ、それを私にずっと背負わせて下さい
いつか、私の苦難が私に重すぎるものになったら、
私が自分で背負えるよう助けてください。

第 5 8 a 曲【67】 (27:33-40)

福音史家： Und da sie an die Stätte kamen
mit Namen Golgatha,
das ist verdeutschet Schädelstätt,
gaben sie ihm Essig
zu trinken mit Gallen vermischet;
und da er's schmeckte,
wollte er's nicht trinken.
Da sie ihn aber gekreuziget hatten,
teilten sie seine Kleider
und warfen das Los darum,
auf daß erfüllet würde,
das gesagt ist durch den Propheten:
„Sie haben meine Kleider unter sich geteilet,
und über mein Gewand
haben sie das Los geworfen.“
Und sie saßen allda und hüteten sein.
Und oben zu seinen Häupten hefteten sie
die Ursach' seines Todes beschrieben, nämlich:
„Dies ist Jesus, der Juden König.“
Und da wurden zween Mörder
mit ihm gekreuziget,
einer zur Rechten und einer zur Linken.
Die aber vorübergingen,
lästerten ihn und schüttelten ihre Köpfe
und sprachen:

そして彼らは、
ゴルゴタという名の、
翻訳すると「されこうべの場所」という所に来ると、
イエスに、胆汁を混ぜた酢(になった葡萄酒)を
与え飲ませようとしたが、
イエスはなめただけで、
飲もうとはしなかった。
さて、彼らはイエスを十字架につけると、
彼の服を分け、
そのために籤を引いた。 ※新旧 wurden
それは、預言者によって語られたことが
実現するためであった。
「彼らは私の服を分け合い、
私の衣服のことで
籤を引いた」と。
そして彼らはそこに座って見張りをした。
イエスの頭の上には、
彼の死罪の理由が書かれたものを掲げた。すなわち、
「これはイエス、ユダヤ人の王である」と。
その時、二人の殺人者が ※新 Jüden
イエスとともに十字架につけられていた。
一人は右に、もう一人は左に。
さて、そこを通りかかった人々は、
イエスを罵り、頭を振りながら、
言った。

第 5 8 b 曲 (27:40) 二重合唱

Der du den Tempel Gottes zerbrichst
und bauest ihn in dreien Tagen,
hilf dir selber!
Bist du Gottes Sohn,
so steig herab vom Kreuz!

神殿を打ち倒し、
三日でそれを建てる者よ。
自分を救ってみろ！
お前が神の子なら、
十字架から降りて来い！

第 5 8 c 曲 (27:41)

福音史家： Desgleichen auch
die Hohenpriester spotteten sein,
samt den Schriftgelehrten und Ältesten,
und sprachen:

同じように、
祭司長たちもまた、
律法学者や長老たちと一緒に、(イエスを)嘲って
言った。

第 5 8 d 曲 (27:42-43) 二重合唱

Andern hat er geholfen
und kann sich selber nicht helfen.
Ist er der König Israel,
so steige er nun vom Kreuz,
so wollen wir ihm glauben.
Er hat Gott vertrauet,
der erlöse ihn nun, lüset's ihn; denn
er hat gesagt: Ich bin Gottes Sohn.

あの男は他人は救ったのに、
自分は救えない。 ※新 ihm
イスラエルの王なら、
今すぐ十字架から降りてこい。
そうすれば信じてやろう。
彼は、神を信賴している。
神よ、お望みなら、今すぐ彼を救ってやれ。なぜなら、
彼は「私は神の子だ」と言っていたのだから。

第 5 8 e 曲【68】(27:44)

福音史家： Desgleichen schmäheten ihn auch die Mörder,
die mit ihm gekreuzigt wurden.

一緒に十字架につけられた殺人者たちもまた、
同じようにイエスを誹謗した。 ※新 waren

第 5 9 曲【69】 レチタティーヴォ (アルト)

Ach Golgatha, unsel'ges Golgatha!
Der Herr der Herrlichkeit
muß schimpflich hier verderben,
der Segen und das Heil der Welt
wird als ein Fluch ans Kreuz gestellt.
Der Schöpfer Himmels und der Erden
soll Erd und Luft entzogen werden.
Die Unschuld muß hier schuldig sterben,
das gehet meiner Seele nah.
Ach Golgatha, unsel'ges Golgatha!

ああゴルゴタよ、呪われたゴルゴタよ！
栄光の主は
ここで屈辱的に死なねばならない。
この世の祝福と救いは
十字架に呪いとして架けられた。
天と地の創造者は、
大地と大気を奪われることになる。
無罪の人がここで有罪で死ななければならず、
それが私の魂を悲しませるのだ。
ああゴルゴタよ、呪われたゴルゴタよ！

第 6 0 曲【70】 アリアと合唱Ⅱ

Schet, Jesus hat die Hand,
uns zu fassen, ausgedehnt. Kommt!
Wohin ?
In Jesu Armen
sucht Erlösung, nehmt Erbarmen, suchet
Wo ?
in Jesu Armen!
Lebet, sterbet, ruhet hier,
ihr verlassenen Kümmerlein ihr, bleibet
Wo ?
in Jesu Armen!

見よ、イエスは、私たちが抱こうと、
その手を広げました。来なさい！
どこへ？
イエスの腕の中へ。
救いを求め、憐れみを受けよ。求めよ！
どこに？
イエスの腕の中に。
ここで、生き、死に、憩いなさい。
汝ら見捨てられた雛鳥たちよ。留まりなさい！
どこに？
イエスの腕の中に

イエスの死

第 6 1 a 曲【71】(27:45-47)

福音史家： Und von der sechsten Stunde an
ward eine Finsternis über das ganze Land
bis zu der neunten Stunde.
Und um die neunte Stunde
schrie Jesus laut und sprach:

さて、第6時(=正午)から後、
暗闇が全地を覆い、 ※新 war
それが第9時(=午後三時)まで続いた。
第9時頃、
イエスは大声で叫んで言った。

イエス： Eli、Eli、lama asabthani?

エリ、エリ、ラマ、サバクタニ？

福音史家： Das ist: Mein Gott, mein Gott,
warum hast du mich verlassen?
Etliche aber, die da standen,
da sie das hörten, sprachen sie:

これは、「わが神よ、わが神よ、
なぜ私を見捨てたのですか？」という意味である。
だが、そこに立っていた何人かは、※新旧 stunden
これを聞いて、言った。

第 6 1 b 曲(27:47) 合唱Ⅰ

Der ruft dem Elias !

彼はエリヤに呼びかけているのだ！

第 6 1 c 曲(27:48-49)

福音史家： Und bald lief einer unter ihnen,
nahm einen Schwamm und füllte ihn mit Essig
und steckte ihn auf ein Rohr und tränkete ihn.
Die andern aber sprachen.

するとすぐに彼らの一人が走りよって、
海綿を取って酢(になった葡萄酒)を含ませ、
それを葦の先に付けて差しだし、彼に飲ませた。
だが、他の人々は言った。

第 6 1 d 曲 (27:49) 合唱 II

Halt ! Laß sehen,
ob Elias komme und ihm helfe ?

待て！見ていよう。
エリアが来て彼を救うかどうかを。

第 6 1 e 曲 (27:50)

福音史家：Aber Jesus schrie abermal laut und verschied. だが、イエスは再び大声で叫び、亡くなった。

第 6 2 曲 【72】 コラール

詞：Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」第 9 節 旋律：C

Wenn ich einmal soll scheiden,
so scheide nicht von mir.
Wenn ich den Tod soll leiden,
so tritt du **dann** herfür !
Wenn mir am allerbängsten
wird um das Herze sein,
so reiße mich aus den Ängsten
kraft deiner Angst und Pein !

いつか私が(この世から)去るべき時、
私から離れないでください。
私が死に苦しまねばならぬ時、
その時は、姿を現してください！ ※新 denn
私が、この上ない不安によって
心を包囲されるであろう時、
私を不安から引きはがして下さい！
あなたの不安と苦痛の力によって。

第 6 3 a 曲 【73】 (27:51-54)

福音史家：Und siehe da,
der Vorhang im Tempel zerriß in zwei Stück
von oben an bis unten aus.
Und die Erde erbebete,
und die Felsen zerrissen,
und die Gräber **taten** sich auf,
und **standen** auf viel Leiber der Heiligen,
die da schliefen,
und gingen aus den Gräbern
nach seiner Auferstehung ※
und kamen in die heilige Stadt
und erschienen vielen.
Aber der Hauptmann
und die bei ihm waren und bewahreten Jesum,
da sie sahen das Erdbeben und was da geschah,
erschranken sie sehr und sprachen:

すると見よ、
神殿の垂れ幕が上から下まで
真っ二つに裂けた。
そして大地が震え、
岩が裂け、
墓が開いて、 ※新旧 täten、stunden
そこで眠っていた多くの聖者たちの体が
目覚め立ち上がった。
そして、彼(イエス)の復活の後、
墓から出て来て、
聖なる都に行き、
多くの人々の前に現れた。
さて、百人隊長と、
彼とともにいて、イエスを見張っていた人たちは、
地震や起こった事を見て、
大変に驚いて、言った。

第 6 3 b 曲 (27:54) 合唱

Wahrlich, dieser ist Gottes Sohn gewesen. 本当に、この人は神の子だった。

降架と埋葬

第 6 3 c 曲 (27:55-58)

福音史家：Und es waren viel Weiber da,
die von ferne zusahen,
die da waren nachgefolget aus Galiläa
und hatten ihm gedient,
unter welchen war Maria Magdalena,
und Maria, die Mutter Jacobi und Joses,
und die Mutter der Kinder Zebedäi.
Am Abend aber kam
ein reicher Mann von Arimathia,
der hieß Joseph,
welcher auch ein Jünger Jesu war,
der ging zu Pilato
und bat ihn um den Leichnam Jesu.

またそこには、大勢の婦人たちがいて、
遠くから見ていた。
この婦人たちは、ガリラヤから(イエスに)従って、
彼に仕えていたのである。
その中には、マグダラのマリア、
ヤコブとヨセフの母マリア、
ゼベダイの子たちの母がいた。
さて、夕暮れになり、
アリマテアの金持ちの男で
ヨセフという人が来た。
この人もまたイエスの弟子であった。
彼はピラトのところに行って、
イエスの遺体を求めて、ピラトに願い出た。

Da befahl Pilatus,
man sollte ihm ihn geben.

そこでピラトは、(man 不定代名詞、誰か然るべき者が)
ヨセフに (ihm) イエスを (ihn) 渡すべし、と命じた。

第 6 4 曲 【74】 レチタティーヴォ (バス)

Am Abend, da es kühle war,
ward Adams Fallen offenbar;
am Abend drückt ihn der Heiland nieder.
Am Abend kam die Taube wieder
und trug ein Ölblatt in dem Munde.
O schöne Zeit! O Abendstunde!
Der Friedensschluß ist nun mit Gott gemacht,
denn Jesus hat sein Kreuz vollbracht.
Sein Leichnam kömmt zur Ruh,
ach, liebe Seele, bitte du,
geh, lasse dir den toten Jesum schenken,
o heilsames, o köstlich's Angedenken!

夕暮れの涼しい時、
アダムの墮落は明らかになった。
夕暮れに、救い主はそれ(その墮落)を克服された。
夕暮れに、ハトが戻ってきた、
そして一枚のオリーブの葉を口にくわえていた。
おお、美しい時よ！ おお、夕暮れの時！
平和の結末が今、神とともに完成した。
イエスが十字架を成し遂げたからである。
彼の亡骸は、安らぎに向かう。
ああ、愛する魂よ、願うがよい。
行って、死んだイエスをお前に賜るように。
おお、救いとなる、貴重な形見よ！

第 6 5 曲 【75】 アリア (バス)

Mache dich, mein Herze, rein,
ich will Jesum selbst begraben.
Denn er soll nunmehr in mir
für und für
seine süße Ruhe haben.
Welt, geh aus, laß Jesum ein!

私の心よ、汝を清めよ。
私はイエスを自ら葬ろう。
なぜなら彼は今や私の内で
永遠にいつまでも
甘い憩いを享受し続けるのだから。
世よ、出て行け。イエスを中へ迎え入れよ！

※メンデルスゾーン版：上 2 行のみを歌い間奏で終結。

第 6 6 a 曲 【76】 (27:59-63)

福音史家: Und Joseph nahm den Leib
und wickelte ihn in ein rein Leinwand
und legte ihn in sein eigen neu Grab,
welches er hatte lassen in einen Fels hauen,
und wälzete einen großen Stein
vor die Tür des Grabes und ging davon.
Es war aber all da Maria Magdalena
und die andere Maria,
die setzten sich gegen das Grab.
Des andern Tages,
der da folget nach dem Rüsttage,
kamen die Hohenpriester und Pharisäer
sämtlich zu Pilato und sprachen:

ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、
それをきれいな亜麻布に包み、
ヨセフ自身の新しい墓の中に横たえた。
それは彼が岩を掘って作らせたものであった。
墓の入口には大きな石を転がしておき、
立ち去った。
しかし、マグダラのマリアと
もう一人のマリアはそこにいて、
墓の方を向いて座っていた。
明るる日、
すなわち、「安息日の準備の日」の翌日、
祭司長たちとファリサイ派の人々は、
皆残らず、ピラトのところに来て、言った。

※新旧 setzten

第 6 6 b 曲 (27:63-64) 合唱 I II

Herr, wir haben gedacht,
daß dieser Verführer sprach,
da er noch lebete:
Ich will nach dreien Tagen
wieder auferstehen.
Darum befiehl,
daß man das Grab verwahre
bis an den dritten Tag,
auf daß nicht seine Jünger kommen
und stehlen ihn und sagen zu dem Volk:
Er ist auferstanden von den Toten,
und werde der letzte Betrug
ärger denn der erste!

閣下、私たちは思い出しました。
この誘惑者は
生前言っていました、
「自分は三日後に
復活するだろう」と。
ですから、命令してください、
三日目まで
墓を見張るように、と。
そうでないと、弟子たちが来て
死体を盗み出し、民衆に言いふらすかもしれません。
「イエスは死者の中から復活した」と。
そうすると、今度のその詐欺は、
以前よりももっとひどくなるでしょう。

第 6 6 c 曲 (27:65-66)

福音史家： Pilatus sprach zu ihnen:

ピラト： Da habt ihr die Hüter;
gehet hin und verwahret's, wie ihr's wisset!

福音史家： Sie gingen hin
und verwahreten das Grab mit Hütern
und versiegelten den Stein.

ピラトは彼らに言った。

お前たちには番兵がいるのだから、
行って墓を見張らせよ。お前たちの思うように。

彼らは行って
番兵をつけて墓を見張らせ、
墓の石に封印をした。

哀悼

第 6 7 曲 【77】 独唱 & 合唱 II

Baß : Nun ist der Herr zur Ruh gebracht.

今や主は憩いに至りました。

Ten : Die Müh' ist aus,
die unsre Sünden ihm gemacht.

苦労は終わりました、
我々の罪が彼にもたらした(苦労は)。

Alt : O selige Gebeine, seht,
wie ich euch mit Buß und Reu beweine,
daß euch mein Fall in solche Not gebracht!

おお、聖なる亡骸よ。見よ、如何に私が、
懺悔と後悔とともに、あなたを悼んでいるかを。
私の墮落があなたにこんな苦痛をもたらしたのです。

Sop : Habt lebenslang
vor euer Leiden tausend Dank,
daß ihr mein Seelenheil
so wert geacht'.

命ある限りずっと、
あなたの受難にたくさんの感謝を捧げます。
あなたは、私の魂の救いを、
こんなに大切に配慮して下さいましたので。

合唱： Mein Jesu, gute Nacht !

私のイエスよ、おやすみなさい！

第 6 8 曲 【78】 二重合唱

Wir setzen uns mit Tränen nieder
und rufen dir im Grabe zu,
Ruhe sanfte, sanfte ruh'!

私たちは涙してひざまずき
そして、墓の中のあなたに呼びかけます。
安らかにお休みください、安らかに。

Ruht, ihr ausgesognen Glieder!
Ruhet sanfte, ruhet wohl!
Euer Grab und Leichenstein
soll dem ängstlichen Gewissen
ein bequemes Ruhekissen
und der Seelen Ruhstatt sein.
Ruhet sanfte, sanfte ruht!
Höchst vergnügt
schlummern da die Augen ein.

お休みください、疲れ果てた御体よ！
安らかにお休みください、心地よく。
あなたの墓と墓石は、
不安げな良心にとっては
心地よい憩いの枕、
魂の憩いの場となるべきもの。
安らかにお休みください、安らかに。
この上なく麗らかに、
その眼はそこで眠りにつくでしょう。

※終曲は、「前奏・A・間奏1・A'・B・間奏2(=前奏)・A・間奏1・A'」の形だが、

メンデルスゾーン版

「前奏・A・間奏・A'・B」で dal segno して「A・間奏・A'」、＝間奏2をカット。

メンゲルベルク

「前奏・A・A'・B・間奏2(=前奏)・A・A'」、＝間奏1をカット。

※メンデルスゾーン版全般について

福音史家の音域がだいたい Gis より上が出てくるところでオクターブ下げられている。最大の聴かせどころ「ペテロは外へ出て激しく泣いた」では、「外へ出て」はオクターブ下げ(H を回避)、「激しく泣いた」はそのまま高音(A あり)。楽器編成についても変更が多々ある。ただし 1829 年版と 1841 年版でも編成に違いがある。(カット部分はほぼ同じ。)